

地域で子どもを育てる試み：公民館の通学合宿

本村，信幸
社会福祉法人野母崎町社会福祉協議会

<https://doi.org/10.15017/9021>

出版情報：生活体験学習研究. 2, pp.73-75, 2002-07-31. 日本生活体験学習学会
バージョン：
権利関係：



地域で子どもを育てる試み

—公民館の通学合宿—

本村 信幸

Trying to Bring up in the Region

—Tsugaku training camp at the community center—

Motomura Nobuyuki

要旨 テレビゲーム中心で会話のない我が子のあそびを目の当たりにして、これを現代的な課題ととらえ、生活体験のチャンスを設けることで、子どもの生きる力を育むことができるであろうと始めた事業である。

日時を決めて「さあ出発！」とは行かない。

地域や保護者の理解、子ども達の意欲の喚起、子どもだけの作戦会議、支援者の選定など事前の準備には相当の期間を費やした。なかでも「地域の人と共に学ぶPTA研修」は人集めに苦勞し、合宿対象となる保護者の意識高揚とまでは至らなかった。

子どもは、家事のすべてを協力して行い、風呂は近所の高齢者宅へ「もらい風呂」に出向き、人の心の温かさにふれ苦しい中にも楽しい合宿であった。

「人と人とのみ合いがない今こそ、この試みは大事！」と強く実感しました。

この取り組みをとおして、子離れできない親、地域と交流のない家庭、現代の家庭が抱えるさまざまな問題が見えると同時に関わった住民に笑顔が広がり、家庭・地域の教育力再生へ向けた試みであったように思います。

キーワード 現代的課題、もらい風呂、子離れ

1. はじめに

21世紀に生きる子ども達は、少子・高齢化、高度情報化社会の中でファミコンゲームに見られように、バーチャル（仮想現実）な間接体験は増えたけれども、地域集団の中で自然にふれたり生活の体験を獲得する直接体験の機会が乏しくなっている。

文部省のアンケート調査によれば、お手伝い・生活体験・自然体験が豊富な子ほど、道徳観・正義感が身に付いているとしている。また、保護者は、すこやか佐賀っ子の家庭教育アンケート調査によれば、親の生

き様と子どもに好かれている割合は、50%前後と高いのだが、「自分は望ましい親だと思う」という問いでは、5.2%とびっくりするような子育てへの自信の無さが報告されている。

そして、現代の子は年齢に応じて心が育っていない。心は直接多くの体験をしなければ鍛えることはできない。その最も大きな原因の一つは、年齢相応に自ら体験すべきことを直接に体験していない、すなわち体験の乏しさにあると考えられている。

樺島の子ども達は、自然が豊かだからといって積極

連絡・別刷請求先 (Corresponding author)

所属機関名 社会福祉法人 野母崎町 社会福祉協議会 (〒851-0505 長崎県西彼杵郡野母崎町野母563-1)

TEL (095) 893-0600 motochan@muse.ocn.ne.jp (個人)

(Nomozakicyou Kabashima 307 Nagasaki City, Japan)

的に野山に出掛けることは少ない。ファミコンやゲームボーイなどをして遊ぶ、現代に生きる普通の子も達と何ら変わりはない。

そこで、樺島の地域社会にあっても過疎・少子化が進む昨今、子ども達の体験獲得は大丈夫なのか、という危機感を持つべきではないのか！これを現代的課題として取り組もうと考えたのである。

通学合宿をとおして生活体験を獲得させることで、子どもの生きる力を育むことができるであろうと試みた。

では、この活動・役割を誰が担うのか？を先ず、公民館運営審議会で真剣に討議し、この事業をスタートしたのである。

2. 「地域の人と共に学ぶPTA研修」から「通学合宿」へ

★ねらい；『通学合宿を地域でやろう！』という意識を高めるため。

平成12年度

回	月 日	内 容	テ ー マ	P参加数/総参加数
1	5. 9	笑って学ぶ講演会	地域の子どもは地域で育てよう！	5 / 60
2	6. 3	自由座談会	違いがわかる!? 「今と昔の教育」	5 / 31
3	7. 1	親子でレクリエーション	遊びは人の心をつなぐもの	7 / 70
4	8. 5	輝く講演会	今なぜ、子ども達に体験学習が必要なのか？	6 / 50
5	10/18-21	通学合宿	たくましく生きる樺島の子を育てる	

=この研修で出された参加者の声(要旨)=

- 1) 通学合宿に送り出す親の側で「2泊は多い？少ない？」とそれぞれ意見が分かれる。
どうしたらよいのでしょうか？
- 2) 昔、親は仕事で忙しく子どもに関われなかった。今あまり関わりすぎだと思う。
- 3) 愛情と甘やかしがゴッチャになっている。
- 4) 我が子が良ければそれでよしではなく、みんなよい子になってほしい。

3. 通学合宿をとおして

—子ども—

- ① 夜遅くまで起きていたので、学校はけっこう眠かったです。去年とくらべて、料理もうまくなつたし洗濯もきちんとしました。これを家の手伝いでもして、お母さんを楽にさせたいと思います。
- ② 最後の日に女子と男子でケンカして、いそがしかったです。
- ③ 失敗に学んだことは、一人一人が自分の仕事をしないと時間も遅れるし、みんなに迷惑をかけることだと思います。

—保護者—

- ① これまで台所のことは、したことがなかったのですが、合宿から帰ってきた後、玉ねぎをむいてくれました。
- ② 子どもたちは、「ここの方が楽しい」とか「帰りたくない」とか言って、すっかり親離れして、親は子離れしていなくて淋しい毎日でした。

—もらい風呂先の高齢者—

- ① 「子どもが来るのが待ち遠しかった。自分の本当の孫が来たようでうれしい!!」と

—スタッフ(大学生)—

- ① 今回の合宿を通して子どもたちは、自分の責任感であるとか、協力して得る感動であるとか、何より自分を支えてくれる人々への感謝の心を強く感じとって、素直にそれを表現できるようになりました。

私自身、忘れられない貴重な4日間を送ることができました。

4. この合宿の6つの特徴

- 1) 通学合宿の実施に向けて地域の人やPTAを対象に、その関心・意識を高めるため事前研修会『地域の人と共に学ぶPTA研修』を4回開催したこと。
- 2) 子供自らが今回の「めあて」を「失敗に学ぼう」と決めたこと。

- 3) 公民館にお風呂が無かったことにより、喜んで高齢者がお風呂を提供し、地域で子どもを育てる事例がつくれた。
- 4) 子ども達が風呂を提供してくれた高齢者へお礼のプレゼントを渡すシーンに感動したこと。
- 5) 事前の健康調査を取らなかったことで、保護者は私との面接をする結果となり、保護者との信頼関係が更に築けたこと。
- 6) 保護者反省会では、^{なま}生の家庭教育学級が開けて嬉しかったこと。

5. 意識を高めることの難しさ

この「地域の人と共に学ぶPTA研修」で大変苦労したのは人集めでした。

樺島小学校PTAは、約30世帯しかおらず、当然近隣の小学校PTAへも案内し、多いときで300件近く案内状を届けました。なかでも合宿対象となる子どもの親の参加は、多いとは言い難かったのです。

このことは、事前の保護者説明会で、当初の計画5泊を「4、5泊は多すぎる？」という、保護者の意見となって現れ、ついには5泊案は減少せざるをえなくなりました。

6. 今後の課題

通学合宿は、たった今、走り出したばかりです。

- 1・2回合宿をしたくらいで子どもは変わらない。

子ども自身が「生きるための技」を何回も何回も体験しなければ身に付かないと考えます。

この通学合宿はこれからもずっと続けていきたい。そして将来は、この合宿経験者が樺島に戻ってきて合宿を支えてほしいと強く願っています。

そこで、今後の課題は次のとおりです。

① 目的意識の風化をどう防ぐのか？

時の移ろいの中で当然、保護者・地域も変わります。PTA研修をしたからと言って「親の子離れが子どもの自立を育む！」と全ての保護者が解っているわけではありません。やがて、その意味さえも忘れ去られる時がやって来るに違いありません。これをどう防げばよいのでしょうか？

② 誰が継承し担うのか？

市町村合併を目前に控え、公民館の存続も不明。当然、職員の配置も不明です。合宿経験者が支えることを切望するが、それまでかなりの時間を要すると考えます。

そのために、今何をなさなければならないかを、地域の人たちと共に考えていきたいと思えます。

引用文献

1. 生涯学習審議会（答申）平成11年6月9日
2. すこやかさが子育て推進懇話会による家庭教育アンケート報告書から 平成12年3月